

セイタカスズムシソウ *Liparis japonica* (Miq.) Maxim.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 14。山地性のラン科植物で、県内では個体数が少なく、また園芸目的の採取圧も高い。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 20~40cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1~2 年残存して横に並ぶ。葉は茎の基部につき、鞘状のものを除き 2 個、葉身は楕円形、長さ 6~12cm、幅 3~5cm、先端は鈍頭、基部はくさび形でやや鞘状に茎を抱く。花期は 7~8 月、花は花茎の上部に多数がややまばらにつき、多少なりとも紫を帯びた緑色、苞は卵状 3 角形、長さ 1~1.5mm である。がく片は線状披針形、長さ 8~10mm、先端は鈍頭、側花弁は糸状である。唇弁は倒卵形、長さ 7~8mm、幅約 5mm、先は円頭で凸端、辺縁には細歯牙がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 44863, 1993-6-27)、2 豊根 (小林 52365, 1994-6-26)、3 東栄 (小林 38228, 1992-7-11)、4 津具 (小林 44247, 1993-6-13)。ただし一部の区画では、すでに消滅しているかもしれない。

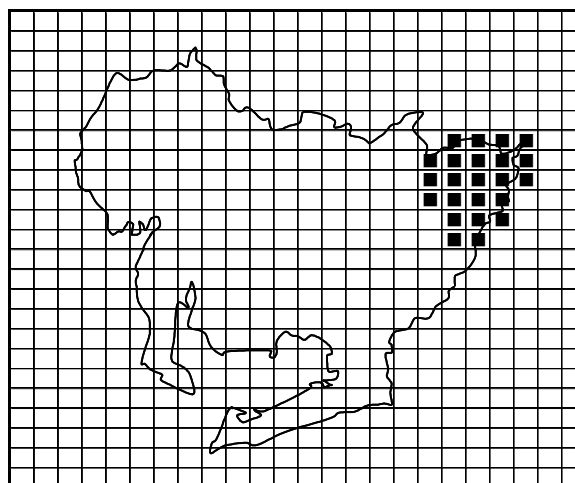
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、アムール。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

数カ所で確認されているが、どの場所でも個体数は少なかった。最近の状況は十分確認されていないが、山草愛好家に発見されれば消滅の可能性が高い。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

スズムシソウに比べ、植物体は大きく、花は小さい。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.51, 平草本 I p.219, 平新版 1 p.212.